

# STAGE

AMUSEMENT SQUARE

## 演劇空間「スペースベン」

### 歌いながら悪さはできない

「それでは青森から、ニュースをお伝えします。」

来月九日に控えた『弘前雪まつり』の準備が進められています。今年のは心配された雪不足を解消しようとして岩木山麓から自衛隊が雪を運び、一週間程作業が遅れています。十日後に迫った開催に向けて、これから連日、徹夜で作業が続けられます。」

私は思った。

イベントは大変だ。

やる人は大変苦労する。

はつきり言って辞めたい時もある。だから、

続けている人はすごいと思える。

○

『スペース・ベン』

『FANS』

という企画を思いついた時、反対する人の方が多かった。

「せめて、月一回にしたら。」

「マンネリするのは目に見えてるよ。」

しかし、ベンさんは始めた。

毎週金曜日、必ずステージを開く。

それは、決して止まらない、グリニッジ天文台の時計台のスイッチを入れる時のような決意だったと思う。止まらない。

という事が、いかに大変なことか。休めない。

というのが、どれだけつらいことか。

「好きじゃなきゃできない事だよ。」

言うのは簡単だ。

「八戸ってナンカ、イマイチ」

言うのは気楽だ。

「これからも八戸の活性化の為に……」

ほめられるのも簡単だ。

雪がなければ、岩木山から運んできてまでも、

間に合わせるために、氷点下の中、

十日間も徹夜してまでも、

そこまでして、人々はイベントを継続させる。

何がそうさせるのか。

FANSを支えているもの。

それはオーナーであるベンさんほ

ちろんのこと、奥様、そしてお子さん

それに、そこに何かを求めて通ってくる人達。

それはスタッフであり、

出演者であつたり、

お客さんであつたり、

私は思う。

これは、新しい市民性の誕生だ、と。

『足を引っぱるのが得意』

と、酷評される事に慣れた八戸の人達

は、減りつつある。

新しい市民性とは、

スペース・ベンに通う事や、

ハマロックに参加する事を、

一切の損得勘定なしに行なえる人達であり、このままこういうイベントを継続されていく事で、八戸<sup>地域</sup>に定着した、『足を引っぱる』イメージを払拭する事ができる。

回数を重ねる事で、確かに薄まる行為もある。しかし新しい人達は、それすら見抜いているのだ。

もったいぶった公演や、神格化したきたステージ、そういうものの仕掛けにはもうひっかからない。

音楽や演劇は、

もう特別のものではないし、

うらやましがられたり、習ったりするものでも、もうないと思う。

別々の名前で活動している人達が、

本当は同じ物を目指している。

そういう事を実感できるスペース。

それが、スペースベンだと思う。

三月に、みみの日がある三月に、

「音楽」というテーマで四つのライブが行なわれる。

ハマロックにろうあの子が来た

時、きこえないはずの音楽に手拍子で

リズムをとっていた。

「みんなの楽しそうな顔や、振動で、

きこえないはずの音がきこえてくるんだって、よろこんでたよ。」

ときいた時の涙は、本当に伝わるものが伝わる世の中がきたんだ」という喜びの涙だった。

スペース・ベンに流れる四つの音楽

が、今度は、誰に何を伝えるのか。

## スペースベン 今月の予定

● 三月一日金

四年に一度のうるう年企画

「介在せしもの」 作 市川考樹

出演 市川考樹

平岡幸夫

● 三月八日金 未定

● 三月十五日金 出演 OLD EGGE

● 三月二十二日金 未定

● 三月十九日金

「リバイバル」夜DANS」

出演 橋本・ヤスギ

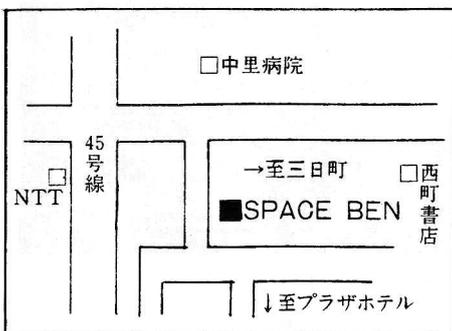
※各週・開演十九時三十分

料金／五〇〇円

〈問い合わせ〉

〒031 八戸市柏崎一十一一八

TEL&FAX 0178(43)9876



車でのご来場はご遠慮下さい(近くに西町書店駐車場有)